

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	独自の療育プログラムがあり、統一した理念の下でスタッフ一人ひとりが方向性に迷うことなく自信を持って支援をしている
	内容	当事業所では「コロロメソッド(発達を促すプログラム)」による独自の療育プログラムと技術をスタッフ全員が学び、共通認識を持って療育を実践している。同じ目標を持って一貫した対応を行えることでスタッフ相互の対応の格差も少なくなり、結果として子どもの混乱を防ぐことができる。また、望ましくない子どもの行動に対してもSR(刺激と反応)分析を行い、共通認識を持って対応することができる。このことが職場での実地研修をしやすいよい雰囲気につながっている。
2	タイトル	子どもの発達を促す療育の場として、保護者と協働することができる
	内容	当事業所では一貫した理念に基づく対応の基本方法(「コロロメソッド」)が確立されている。保護者も「コロロメソッド」の療育プログラムを学び、家庭での療育を実践している。当事業所を単なる「お預かり」の場として利用するのではなく、ともに療育する場として選ぶ保護者が大部分であることが子どもの発達に繋がっている。年に2回の個別支援計画面談だけではなく、日頃からノートのやり取りや送迎時の相談、アドバイスなどこまめな対応を重視して行っている。
3	タイトル	積極的にICT化を図り有効に活用することで情報の共有化と効率化に努めている
	内容	法人内ネットワークの活用によりスケジュールを始めとする情報の共有化を進めている。行事・物品購入・研修・会議録および事故報告などの決裁や閲覧はWEB上で管理する仕組みを構築している。職員が書き込んだ内容に対して上司がコメントを記入する欄も設けてあり、指導内容を含めて情報を職員間で共有している。パソコンを開くためのパスワードを個人ごとに設定して、情報へのアクセス制限を行っている。また、法人内の施設とテレビ会議システムを使用して、研修会議を実施するなどシステムを有効に活用して移動時間の無駄をなくしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	高機能自閉症児の増加に伴い、より一層活動内容の工夫に取り組んでいきたい意向を持っている
	内容	活動プログラムの中に「レクデイ」と称するレクリエーション活動をする日を設け、季節に合わせた活動内容や調理、音楽、運動など様々な課題を取り入れている。特に高機能自閉症の子どもを中心に意欲的に参加している様子が見られる。高機能自閉症児の増加に伴い、より一層活動内容の工夫が求められている現状を認識している。現在平日に設定しているレクデイを休日の活動にも組み込んでいきたい意向である。
2	タイトル	人材育成・定着につなげていくことを課題として取り組んでいる
	内容	企画人事部(職員課・採用課・研修研究課・広報課)を設置して、スタッフの待遇・福利厚生改善、定着・育成、採用活動の強化、広報、研修研究を一元化することで、人手不足の解消、離職防止、人材育成のための取り組みを進めている。今年度より派遣職員の採用や若手スタッフの採用活動への参加などで、組織への愛着やコロロメソッドによる支援に誇りを感じられる経験をするに取り組んでいる。人材育成・定着に繋げていくことを課題として取り組んでいる。
3	タイトル	理論と実践を結び付けていく研修のさらなる強化が必要と認識している
	内容	実践を重視した形式の研修を取り入れているほか、職員個別の目標に応じたスーパーバイズを役職者が行うOJTによる実地指導の充実も図っている。ケース研究について定期的な研修のテーマの一つとして計画に取り入れている。ケース研究では動画を利用して、対応の善し悪しを検討する機会を設けるなど支援の向上に積極的に取り組んでいる。マニュアル等に記載している内容について、動画による検証などで振り返ることで、理論と実践を結び付けていく研修のさらなる強化が必要と認識している。